

会 議 記 録

次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	平成26年度第1回魅力ある屋島再生協議会
開催日時	平成26年6月5日(木) 15時00分～16時30分
開催場所	サンポートホール高松 6階 61会議室
議 題	(1) 平成25年度事業報告及び収支決算について (2) 平成26年度事業計画(案)及び収支予算(案)について (3) 今後の協議会の運営の在り方について (4) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	佃委員(会長)、岩佐委員(副会長)、板倉委員、大石委員、岡委員、佐々木委員、佐野委員、城下委員、高橋委員、古川委員、前田委員、眞鍋委員、三谷委員、宮武委員、森委員、矢田委員
傍 聴 者	0人
担当課および 連絡先	政策課 839-2135

審議経過及び審議結果

議事に先立ち、今年度新たに就任した委員の紹介を行った。
また、魅力ある屋島再生協議会会則第5条第3項の規定により、監事を会長の指名により選出した。
監 事 佐野 正委員

次の議題について協議し、下記の結果となった。

議事(1) 平成25年度事業報告及び収支決算について
平成25年度事業報告及び収支決算について、事務局から報告し、収支決算の監査結果について、監事から報告した。
委員からの質疑・意見等なく、報告のとおり承認された。

議事(2) 平成26年度事業計画(案)及び収支予算(案)について
平成26年度事業計画(案)及び収支予算(案)について、事務局から説明した。
委員からの質疑・意見等なく、報告のとおり承認された。

議事(3) 今後の協議会の運営の在り方について
協議会委員及び部会委員に対して実施したアンケートの結果について、事務局から説明した。

【主な質疑・意見等】

(委員)

議論のテーマを絞って、より意見を出し合えるようにすべきである。目標である屋島の到達すべき姿と、屋島の現状や、それらのギャップを共有し、ギャップを埋めるために何をしなければならないのかを議論する必要がある。屋島の到達すべき姿は、屋島活性化基本構想を定めた屋島会議のときに決まったはずであるが、再認識し、検証していかなければならない。

(委員)

目標ということであれば、「屋島山上拠点施設基本構想」の2ページにある「基本的な考え方」にほとんど網羅され、かなり具体的に書いてある。このような内容で議論してきており、この考え方を煮詰めていけばよいのではないか。

審議経過及び審議結果

(委員)

施策数が多く、どれから手を付けていいか分からない。行政と民間との振り分けもできていないのではないかと。現在は、屋島山上拠点施設だけが走っている状況である。行政が行うものと、民間でできるものとは分けて考えるべきである。

(委員)

行政が行うことと、民間が行うことの両方をコーディネートして、いい結果につなげることが協議会の役割と考える。全体の進行管理をこの協議会においてどう行っていくのが課題で、このことを議論できればよい。

(委員)

アンケート結果にもあったように、情報の共有化や、部会の枠にとらわれない会議の開催などが求められており、部会の活性化を図るべきである。

(委員)

部会間の情報共有が不足していると感じる。3部会での議論の状況を取りまとめ、協議会や市民に知らせることを考えてはどうか。部会の回数は、年3回であるが、もう少し増やしてはどうか。

(委員)

施策・事業の数が多いので、進捗状況が分かるような資料がほしい。また、行政が行う部分と民間が行う部分について考えていくときに、協議会や部会で議論すべきことを絞りながらやっていく方法もある。

(委員)

アンケート結果から感じたが、県外客に楽しんでもらうためには、便益施設や、ビジターセンターについて、知名度にあった整備が必要である。キャッチフレーズ・シンボルはパンフレットなどに活用し、情報発信力を高めていくとよい。松本明子さんや荒俣宏さんのYouTubeの動画は、もっと再生回数が伸びるのではないかと。学術的調査・研究講座の開催については、勉強したいという人は多いので、そのような講座が出来たらよい。

(委員)

香川県の観光にとって、屋島は欠かせない存在である。しかし、このような施策で本当に屋島が活性化するかという意見もある。全国的に変わったなと思われるようなことがないと、地道な努力を続けていても難しい。認知度も、全国では3割しかない。何かもう一つ全国の人が変わったなと思う取組が必要。取組が一つからでも注目されることが必要。

(委員)

屋島活性化基本構想にしても、色々な観点から書かれている。協議会もそれらを同時に議論していて、議論が分散している感じがする。自然、観光など、分野を絞れば議論の活性化が図られるのではないかと。具体的事業については、部会の回数を増やして、事業が進むように議論していけばよい。屋島の魅力がそれぞれの分野で高まるように、部会で議論を深めればよい。

(委員)

今年は、瀬戸内海国立公園指定80周年に当たるが、屋島が国立公園指定第1号であることは、今年に限らずいつでも発信できる。このことに、屋島の持つ意味がある。もっと発信していくべき。

(委員)

屋島で多くのイベントが行われており、イベントのときは盛り上がるが、終わった後は、しらっとしている。リピーターを獲得するためには、次々とつなげていくものをつくっていかねばならない。屋島活性化基本構想の半分でもできれば、屋島に人が来てくれて素晴らしいと思うが、施策・事業数が多いと思う。できるものから優先順位を付けて、みんなを巻き込むようなテーマを絞り込んで取り組んではどうか。

(委員)

審議経過及び審議結果

屋島活性化基本構想は総花的すぎるので、絞り込んでやるべき。屋島山上の入込客数は、ピーク時に約250万人だったのが、現在は約50万人である。この50万人を、今後、どのくらいを目標にして、誰を対象に、どういう方法で来てもらうかを、絞り込んで議論できるとよい。源平屋島地域運営協議会との整合性も考えるべき。

(会長)

市の屋島活性化推進計画では70万人を目標としている。

(委員)

多くの人が屋島について議論しており、このようなことは、他の地域ではない。しかし、観光客が少ないのは、解決できない問題があるのだろう。的を絞って考えるべきである。

(委員)

屋島活性化基本構想の作り方はいいが、責任体制はどうか。実施主体が、市民、市民活動団体、民間となっている事業について、誰がするのか、財源をどこに求めるのかなど、真剣に議論しないと進まないのではないか。44の施策・事業が、全て同じレベルで掲げられているが、それぞれレベルは違うのではないか。70万人の目標をどうしていくのか、リサーチしなければ、実現性が危ぶまれる。屋島の議論を、成功事例にしなければならない。

(副会長)

屋島活性化基本構想のプロジェクトの数が多すぎる。年2, 3回の協議会開催では、行政任せの会議になっている。若い人の意見を取り入れていくことも大切である。各施策・事業の進行状況の分かりやすい資料をつくってほしい。

(会長)

部会の活動について、事業計画では3回の会議を予定しているが、部会の論議が活発化するように、回数等を含めて考えていきたい。色々な立場を超えて、屋島が、人々が集い、楽しめる場所になるよう、今後、施策・事業の選定を含め、議論を重ねていきたい。

議事(4) その他

屋島のマップ・パンフレット「屋島 Walker」及び「屋島たんけん隊」、屋島ビューポイント・フォトコンテストの実施、瀬戸内海国立公園指定80周年記念式典の開催、屋島キャッチフレーズ・シンボルマークの使用基準の制定、屋島山上拠点施設基本構想、平成26年度屋島活性化推進計画について、事務局から説明した。

—以上で審議終了—